

守護神 ゴーレス

第11話
『世界の影、
至高の存在ハイエスト』
WHITE ROOM

作：みかつきなお

絵：せんざいナオミ

守護神ゴーレス第11話

『世界の影、至高の存在ハイエスト』

white room

ハイエストの白い部屋

。

米国ボストン、トロイ＝プリマス本社ビル。

その中のロコスボストン聖堂の至聖所のドアを白装束のギルバート・ホーラルが開ける。

仮想会議室の準備は既に整っていた。

白い空間に白装束の司祭達が円卓の周りに立っている。

「東部時間の諸氏には目覚めの悪い時間帯かもしれない。最初にブリースト・ベラードに詳細を報告していただきたい。オキナワの事件は桐丸の内紛とみていいのかね？単純な構図ではないとみたが、どうかね」

白衣の司祭服に身を包んだトマス・ベラード大佐が現れた。

「同志ギルバート、ウォード粒子の収集をタチバナが行っているようです。我々はこの分野は遅れをとっている以上、早急な対策が必要です。アルケミストの技に対抗する技術をアルナックス女史の努力によつて新兵器開発はまもなくです」

「人的ウオードと天然ウオードのホットスポットの一つであるオキナワは存在するだけ資源だ。ベラード司祭に任せよう。ベラード君、君のチームが世界を回つてリサーチした世界のウオード粒子濃度を投影してくれたまえ」

ベラードがボタンを押すと円卓の中央に格子状のマトリックスがあらわれた。その画面上に世界地図が描かれ、ギルバートホーラルが手をかざすと、マトリックスは3次元方向に波打ちだし、波は落ち着くと地図上に実際の立体地図とは違う山々を形作る、要所要所に突出した尖山を描いた。

「さてお馴染みのウォード粒子世界マップだ。いつも通りのホットスポットの山が世界中に散在している。最高の山エルサレムは常に我々の手中にある。だがしかし第2の山オキナワは半日前にエルサレムを越えるウォード粒子量を記録した。問題はそこで

はない、時間経過ごとに見ていただきたい」

地図上の沖縄に作られた格子状のマトリックスの山が次第に高くなり、エルサレムの高さを越えた頃、スパッと切り取られたかのよう山が消え、また盛り上がりってきた。

「見ての通り人為的な反応は能力者の仕業。しかも一人。桐丸の内乱としても我々に矛先が向いた時、我々の計画を早めなければならない。反乱の内容によつては、かの能力者を味方にできるやもしれな

い。あくまで仮定の話だ」
ペラードはマトリックスの山を指差しながら言った。

「同志ギルバート。かの人物は重慶産業公司のマイクロアクチュエーター数億を使って巨大△を形成させ、オキナワのネットをハッキング。巨大△を操る能力者は世界に何名いるか。まずは脅威です」

大手LSIメーカー、フィラデルフィア社CEOジョージゴーレッドバーグはニヤリとして呟いた。

「まあ、わが社の最新のチップは如何なるマイクロアクチュエーター使いの攻撃でもハッキングできなでしよう。」

ギルバートは咳ばらいした。

「ゴーレッドバーグ君、まだ焦る段階ではない。議題に戻ろう。ペラード、かの人物かの人物と繰り返すが名前は分かっているのだろうな」

「は、はあ。ミナト・ナギサキ。まだ若い青年です。ギルバート議長はナギサキの名をご存知ですかね」

「あの渚岐大佐か、知らずしてどうする。アクチユーター開発、能力者の開拓の先駆者。渚岐の子孫なら強い能力をもついても間違いない。敵とするには危険だな。我が陣営に取り込むことができればいいのだが。ふむ」
トーマスは立ちあがり、

「ギルバート、直近の問題は、あのサムライヨロイマシン『ゴーレス』とそのメンバー。ゴーレスは装甲と骨格はフルアルケミックメタルであることはウオード測定から推測できるとの女史からの報告です。彼らは町工場レベルの小さなガレージで作りだしたのです。ティーンの少年少女が。彼らの動勢も重要です」

ギルバートは机を叩いた。

「ペラード、君をオキナワに送りこんで何年になる? ガキのおもちゃじゃない、アクチュエーターだ。完成するまでに察知できなかつた君には失望だ。しかも能力者奪取もあるヨロイも鹵獲できなかつた君の失態はなんだ」

トーマスペラードはこうべを垂れた。

「まあいい、引き続きオキナワを監視したまえ。諸君、我々の計画上オキナワは重要拠点だ。いずれ桐丸の制圧、そして来るべき日のために、ペラード君をお願いする」

ペラードは敬礼した。

そしてギルバート議長が両手を挙げると一同は唱和した。
「ハレルヤ、万軍の主を讃め称えよ。いずれ来る『主』の日のために、永遠のエルサレムの來たらん事を、アーメン」

首相がく然

首相官邸、情報集約センターでまとめられた情報を見ながら、伊是名朝英総理は頭を痛めていた。

これはテロ行為なのだ。しかしうちなーんちゅは、兼光とゴーレスを持ち上げている。国際通りの生まれ変わりを賞賛する反応であるとか。沖縄がテロの脅威にさらされているのだ。この能天気さは一体何だ。テロには届しないと声明した私が空回りになつたではないか。全部桐丸が持つていきやがつて、全く。

総理が苦虫を潰しながら考えこんでいると、執務室に入ってきた情報センター長が首相に耳打ちした。

「まさかこんな時に、本当か？」

「はい、黒っぽい服装の男達の車に乗つて、そのまま消息が不明です」

「これは……内密にするのだ。沖縄の靈的問題だ、伊是名家の神女が狙われるなど……」
孫娘の拉致に、総理は困惑した。



威圧旅行

翌日、浦添埠頭内の飛行船発着場では《イヒカ》

とヘリザードマン ブラウン』 1機と、桐丸重

工製4足歩行重機ヘトリケラトプスⅡを1機ずつ、
飛行船に搭載していた。

長野、諏訪生化学工業への『ヴァージョンアッ

プ』のための旅。
表向きはそうであつたが兼光にとって、これは
『威圧外交』、そしてある任務のようなものであつ
た。

桐江は不機嫌だった。

「昨日のバトルでイヒカはかなりダメージ受けたで
しょ、大丈夫なの？」

「うちのメンテナンススクルーは優秀だよ。キズの修
復からカラーリングまで。ジェットエンジンまで搭
載。徹夜で完成。いやあ素晴らしい」

「労組から抗議きますよ。まつたく……。今回のご
旅行、振動緩衝材の交換にキヤラバンを組むなん
て、またパフォーマンスと取られます。私はマスコ
ミ対応に追われるんです。思いつきも甚だしいです
よ」

「桐江ちゃん、今回の事件は橋の所業だ。カウンタ
ーパンチを仕掛けるには諏訪に向かうしかない。ミ
ッシヨンは僕の頭の中にある。そして、然るやんご
ときお方の親戚筋から私に相談があつてね。橋が
孫娘を拉致したという訳で、うちの調査員が名古屋

から長野周辺の動きを見つけたのよ」

「隠密なら、アクチュエーターを持っていかなくて
も」

「だからあ。軍事バランスだよ。こっちが本気な
のを、見せなくてはな。大名列というのは、軍事パ
レードなんだよ。用心棒も連れて来た」

コンテナ型の仮事務所の中で昨日の二日酔いを覚
ますため、お茶を飲みながら待機しているのは、陸
自第11機動警備大隊の船越とニライ建設の安慶名
だつた。

「どうも。研修っていわれてきたら、結局ここだっ
たんですね」

「だからよ。わんも（わたしも）同じよ。この年で
研修といわれたら、普通窓際行きだが2泊3日温泉
旅とは役得やさや」

桐江は二人に軽く会釈したあと、兼光をにらみな
がら

「もう、お世話になつた人を呼んで慰安旅行も兼ね
るんですか？」

「彼等の腕を見込んだんだ。いずれ必要なことわ
かる」

「……わかりました。8時間のフライト、御無事
で。私はマスコミ対応やつていますから。では」
本社ビルに踵を返してハイヒールの音をカツカツ
鳴らしながら桐江は歩いていった。

兄の動向。ここ最近連絡も受け付けなくなつた

『ゲニウスプロジェクト』を、どれだけ進めることになつてゐるのか。兼光社長が常任委員資格の一時停止を受けている以上、詳細の情報は入らない。この冷戦状態は、ここから変えて行かなければならぬのだ。

『沖縄のために僕はやらなければいけない』

私は、真くんの熱意を支えていかなければならぬ。

琉球大学301講義室

宇都宮桜と稻田、舜、裕一、辰巳、小雪、今日子が集まつた。自分達が知らない神々のことについて、資料のプロジェクトを見ながら考えたいとのことで集まることにした。

「一応、工学科の非常勤講師だからね。大学も使わせてくれたんだけど、理工系じゃなくて日本史と神話系の資料ばかりというのも変だけど」

「では授業みたいなこと、始めるね。舜君、みづき

と小夜子ちゃんは?」

「二人一緒に、バイクで向かつてゐるそうですけど遅いですね」

「了解。しようがないわ、後で補習ね。ではミカヅチ、ミナカタというキーワードから話を広げてみましょーか。稻田さん、お願ひ」

「OK、これからは俺が説明だ。これは神話の時代。アマテラス陣営とオオクニヌシ陣営の戦いだ。国譲り神話と言われているが、結局アマテラス陣営に脅迫されて國を明け渡すお話しなんだな。ここでアマテラス陣営の刺客がタケミカヅチ。オオクニヌシの次男がタケミナカタ。この二柱の神は出雲で対決した後、全国各地を転戦して最後は長野の諏訪の地で『もうここから出ない』と約束して、この戦いは終結したわけだ。日本神話で最大の戦いの一つだね。エキサイティングだけど、いまいち知名度がないんだな。腐女子気的にはヤマトタケルがいいですよ。桜さん」「地味な理系兼オタク的な女子をみたら、すぐ腐女子とかいうんでしょ。もう」

プロジェクトには出雲大社とタケミカヅチが奉られていた鹿島神宮とタケミナカタが祭られている諏訪大社が映された。

裕一が言つた。

「桜さん、やはりタケミナカタが渚岐で、タケミカ

ヅチがゴーレスということか?」

「うーん、考えてもらうしかないんだけど、まず接点が見えないからね。沖縄まで繋がるパイプが見えないし。そもそもあなた達、日本神話とか調べていでしょ」

舜は自信なさげに言つた。

「うん……夢のお告げを組み合わせていつたんだ」「本物の巫術なのね。後学で身につけたものではなく、本物の……」

稻田はジョーラ・キャンベルの本を取り上げて、

「桜さん、夢と神話から言われ続いていること。巫術は僕らが見てきた通り紛れもなく、実在しているんだな」

「そうね。次いくわよ。ウォード粒子。1987

年、ソ連科学アカデミーのユーリ・オシタノフ博士の研究により脳波に比例して派生する素粒子を発見。これは行方不明になつたアメリカ人共同研究者ローラ・ウォード女史の名前からつけられた。心理学、脳科学、物理学を融合する脳波物理学という新しい分野が生まれる。それから、シャーマニズムの研究が広がるんだけれども、各国とも次第に表向きには研究をしなくなつた」

裕一は強気な突っ込みを入れる。

「能力を持つ被験者に対する人道的配慮などが問われるようになつてきた。そこで大学研究機関から民間へ研究がシフトして、さらに研究の状況が不透明になつた。能力者狩り、といえる拉致事件が世界で散發しているのは、確かね。あなた達に協力したい

と思ったのは、こういつた事例があるからよ。実際にみずきが襲われた。あれは威力パフォーマンスかもしれない。しかし強引な拉致があるのもまた事実。紛争地域の仮面の下に暗躍している組織がある。世界の運輸を取り仕切る『ユニオンカーゴ』の人材派遣部門、さらにその中の傭兵部門が暗躍している」

裕一「そこはトロイ＝プリマスが大本なんだろ」

辰巳「今日子さんが『ハイエスト』とかいつていた、あの名前かな?」

今日子「戦場で捕虜から聞いたわ、『大物はハイエスト。これ以上俺は知らない』いくら調べても実体には近づけなかつた。私は身の危険を感じて調査を止めた。ロコス教会は明らかに危険だわ」

桜「大変だつたわね……」

桜はホワイトボードにその名前をいくつか書いて相関関係の線を引いていつた。

「キーワードが行き着くのは宗教団体『ロコス』。

これが一番の中心、『ハイエスト』と暗号で呼ばれるのはここで間違いない。だけど表向きはまったく

関与がみられない」

裕一「俺が一番聞きたかったのは、桐丸グループの内部ですよ。何回か聞いているけど、どこまでニューコンピューティング研究所が自分達の味方をしてくれるのかを教えて欲しい」

桜「桐丸グループは巨大なピラミッド構造。統括委員会が各企業を指令する組織。でも、もう一つの指揮系統に桐橘賢人会議（とうきつけんじんかいぎ）。戦後の功労者を中心とした老人達の集まり。

賢人会議の直轄組織がニューコンピューティング研究所と諏訪生化学工業。お互いに資本的に独立している。そして業務課題のみが賢人会議からの決定事項。私達は意思伝達媒体モノリスとしてトコタチをオノゴロに接続して、ヴァージョンアップを行なう。そこまでが決定された業務。それ以外は演算作業の請負で、独立採算で動いていくしかないわね。そんなに儲からないもの。そしてあなた方の独立性を保つのも私の仕事ね」

小雪「ありがとう。気になっていたのは桐丸は古代とのつながりが深いのが、一番の疑問なんだけど」
桜「たしかにそれは思うことかもしれない。ただはつきり言えることは、古代人がテクノロジーを使はずに我々と同じことを続けてきたということ。巫術、シャーマニズムこそ古代のテクノロジー。この

ことに気がついたのは桐丸もトロイア・プリマスと同じ。でもこれだけはいいたいの。もし世の中に役立つものなら、古代の観智が欲しいと思う。オノゴロシステムによつて天気と地震、特に地震の予測が可能だということが分かつてきたということ。私は責任をもつて、仕事をしたいと思うわ」

裕一は用意してきた言葉を語った。
「ニューコンピューティング研究所がなぜ津堅島にあるのか。そして自衛隊基地内にあるのか。オノゴロの場所、そして重要性に秘密があるのでしょ。反対運動のあつた津堅島埋め立てと海中道路建設の関連。それをはつきりして欲しいですね」

桜は頷いた。

「聖域の『水』……聖域の『水』が必要なのは、ゴーレスと同じよ。久高島北方の海域に、淡水の湧水がある。数百万年前の中城湾の沈降とともに海面下に沈んだ泉。多量の天然ウォード粒子を含有する水を使うため。津堅島の計画はオシタノフが1987年にウォード粒子を発見する前から決まっている。つまり桐丸グループは以前から能力者を利用した仕事を行つていた。そして研究所ありきで陸海自衛隊の分屯地をつくることになつた。私がわかるのはこれくらい。私はあなたの力になりたい。これで最後の誤解は解けたのかな」

一同は頷いた。

裕一「わかりました。社長として、お互ひ協力者としていい仕事の結果を残したいです」

桜「オノゴロの改良、ヴァージョンアップ作業の詳細は伝えます」

ここでおおおと舜が手を挙げた。

「あの…結局ウオード粒子の正体って何ですか…」

桜「正直に聞いてくれてありがとうございます。簡単に言うなら宇宙のエネルギーの一種。ただ特に人間の脳波に反応して色々な人間の潜在能力に作用する。まだまだわからないことだらけだけれども、現在アキュチューターや量子コンピューターのように多方面で利用されている。わかったかしら？」

突然、桜の電話が鳴った。

「小夜子が何者かに連れ去れた」

みづきからの電話に、一同はがく然とした。